

キーワード	テーマ	講義者	学科及び職階	内容
スポーツ学	ヒトや動物が俊敏で正確な動きができる理由	藤川 智彦	医療健康科学部／医療科学科 教授	スポーツをするときの基本姿勢は重要と言われます。例えば、スポーツにおいて俊敏に前後左右に安定して移動するには膝を曲げて中腰になるなど、自然とその姿勢に近づきます。これはヒトが必ず持っている筋の駆動メカニズムの効果が大きく関与しています。この筋の駆動メカニズムについて紹介します。
スポーツ学	スポーツ選手の健康管理	小柳 磨毅	医療健康科学部／理学療法学科 教授	スポーツで起こりやすい外傷(ケガ)や熱中症などを知り、その対応や予防に必要な知識を学びます。救急処置の行い方、ウォーミングアップやクーリングダウンの意義や内容、予防に効果のあるトレーニングやテーピングなどを紹介します
スポーツ学	スポーツ傷害予防に対する装具の効果	成 俊弼	医療健康科学部／理学療法学科 講師	スポーツ傷害予防に対する装具は膝や足を中心に数多く販売されています。しかし、その効果や有効性、適切な装着方法を理解せず、使用していることがあります。そこで、代表的なスポーツ傷害に用いる装具の効果や適切な装着方法などを紹介します。
スポーツ学	クラブ活動の健康支援	森下 聖	医療健康科学部／理学療法学科 特任講師	健全な成長期を支援する目的でクラブ活動支援を実施しています。一人一人に対応した個別相談と指導、クラブ単位での傷害予防講義と評価および実技指導を行っており、その取り組みについて、解説します。
スポーツ学	レクリエーションの学び～楽しさをとおしたこころの元気づくり～	中井 聖	医療健康科学部／健康スポーツ科学科 教授	レクリエーションやスポーツ・レクリエーションを体験し、楽しい活動を通してコミュニケーションを促進し、信頼関係を作って良好な集団づくりを図る方法や理論の基礎について学びます。
スポーツ学	健康分野におけるICT技術	中村 英夫	医療健康科学部／健康スポーツ科学科 准教授	近年、ICT技術をスポーツに応用する事例が増えています。アメリカでは野球の分析にセイバーメトリクスが利用され、単なるスポーツ分析にとどまらず、チーム運営に利用することで成績を向上させる活用がされています。講義では、セイバーメトリクスの話題を中心に健康スポーツ分野におけるICT活用方法についてさまざまな事例を紹介していきます。
スポーツ学	健康なからだをつくるための体力とトレーニング方法	太田 暁美	医療健康科学部／健康スポーツ科学科 教授	近年、メタボリックシンドロームをはじめとする生活習慣病対策として、あらためて運動の重要性が説かれています。何か運動を始めてみようとしたときに、どのような体力を向上させればよいのか、どのような方法で行えば効果的なのでしょう。最近のトピックを紹介しながら解説します。
スポーツ学	ヒトの身体特性と運動時の筋活動	市谷 浩一郎	医療健康科学部／健康スポーツ科学科 准教授	ヒトの動作を評価したり指導するためには、身体的な特性を知っておく必要があります。ヒトの骨格や筋群の構造などの特徴を確認しつつ、スポーツや運動の功拙やパフォーマンス発揮を決定づける大きな要因である筋の活動を紹介します。
スポーツ学	スポーツマネジメント	藺田 大地	医療健康科学部／健康スポーツ科学科 特任講師	スポーツの世界は、プレイヤーだけで成り立っているわけではありません。見る、支える、教える、治す、伝える…色々な知識や技能を持つ人がスポーツの発展のために日々活動しています。全体像を見据えた運営や経営の観点を含めたスポーツへの様々な関わり方を、事例を示しながら紹介します。
スポーツ学	神経科学:アスリートの脳科学	松長 大祐	医療健康科学部／健康スポーツ科学科 特任講師	トップレベルで活躍するアスリートが優れているのは身体機能だけではありません。近年、報告されているアスリートの脳機能を紹介しつつ、運動が脳に与える影響について学びます。